



隣接町会との絆と連帯で 防災力の向上

東京都神田淡路会 会長 大塚 寛



初めに神田淡路会の成り立ちの経緯について説明したいと思います。

神田淡路会は駿河台東部町会、淡路町1丁目町会、淡路町2丁目町会、須田町1丁目南部町会、須田町中部町会、須田町北部町会の6町会で構成されております。平成のバブルが終息し地上げ等により地域住民が流出し地域が過疎化するなかで、いわゆる平成8年公共施設適正配置計画によって6町会地域の淡路小学校が、芳林小学校と統合、淡路小学校は廃校となり空地化されることとなりました。

たまたま平成7年に阪神・淡路大震災が発生し、地域防災力の強化が叫ばれているなかで、この空地を何か利用出来ないかと考えました。そこで都心が高齢化過疎化する中で単一町会では大災害発生時の対応が難しくなっていることを考慮、近隣町会で災害に対し連帯を強め日頃より親睦を深め互いに協力できるように、この空地を利用して定期的に防災訓練をしようと“自助、共助、近所”をモットーに神田淡路会を立ち上げ、以来20年間にわたり防災活動を続けてまいりました。また最近、淡路小学校の広場は再開発によって高層マンション

となりましたが、この中に併設された学生専用のマンションに居住する大学生も、積極的に我々の防災訓練にも参加するようになり、若い力に期待がもたれています。

活動内容としては概ね年4回程度の活動を行って参りました。5月に総会を兼ねて実行委員会を開催し、年間計画を策定しました。これに基き、9月には基礎訓練を主体とした合同防災訓練を実施。12月には年間の反省会を含め消防署、千代田区等の臨席のもと懇談会を開催。3月には防災施設見学会などを実施しております。

実行計画にあたっては、千代田区、神田消防署と細部にわたった打合せを行い、時宜に応じた訓練計画の樹立を行っております。

合同防災訓練では理解を深める為、事前に訓練内容の資料を配布。初期消火訓練、応急救護の基礎訓練のほか、AEDの取扱い方法、夜間照明の取扱い、救出救護、イーバックチェアによる階段避難、時には町会対抗のバケツリレー等、創意工夫を凝らした訓練を実施しており、特に基礎訓練の反復実施の重要性を痛感しています。

視察研修では各地の防災館で、起震車、



初期消火訓練



AEDの実習



防災館の見学実習

煙体験、長周期振動体験等の見学実習を行います。さらに、中越地震被災地のお見舞いを兼ねての訪問や京浜島にある東京消防庁第二消防方面本部消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）を訪問し、東日本大震災に派遣された隊員の体験談、装備の視察。東京消防庁第八消防方面本部消防救助機動部隊（ハイパーレスキュー）の講演、装備の視察。あるいは消防艇の体験乗船等を通

じて、防災活動への認識を深めています。

また加盟町会が地域の特養老人ホームと災害時応援協定を締結し、災害時の地域協力体制も構築しており、6町会が一体となって協力しています。今後は更に親睦と連帯を深め、従来の地域住民の減少のなか、増加するマンション住民の参加をどうやって増やしていくのか等課題も多くありますが、更に結束を強め地域防災力の向上に貢献するよう努力したいと考えています。



立川防災館と東京消防庁第八消防方面本部消防救助機動部隊の視察研修



東京消防庁第二消防方面本部消防救助機動部隊の視察研修